

同じく石田王の卒る時に、山前王の

哀傷びて作る歌一首

四二三番

つのはさはふ 警余の道を 朝去らず 行きけむ人
の 思ひつつ 通ひけまくは ほととぎす 鳴く
五月には あやめぐさ 花橘を 玉に貫き か
づらにせむと 九月の しぐれの時は 黄葉を
折るかざさむと 延ふ葛の いや遠長く 万代に
絶えじと思ひて 通ひけむ 君をば明日ゆ 外
にかも見む